

詩編 100-102編（宝石を探し出す（10分）田中 克彦）

詩 102:6 私は荒野のペリカンのように。 廃虚にいる小さいフクロウのように。

Q. 詩編作者が、自分はペリカンのようにだと言ったのはなぜでしょうか。

（洞-2 776）ペリカンは食物を腹いっぱい詰め込むと、よく寂しい場所に飛んで行き、頭を肩にうずめて沈思黙考の姿勢を取ります。そうしてじっとしているので、遠くから見ると白い石かと思えるほどです。この鳥は一度に何時間もその姿勢のままです。これは、詩編作者が自分の悲嘆の激しさを例えて、「わたしは荒野のペリカンに似ています」と書いた時に言及した物思いに沈んで無活動になった状態に適合します。（詩 102:6）この「荒野」とは、必ずしも砂漠のことではなく、単に人間の居住地から離れた地域、恐らく湿原のことを暗示しているのでしょうか。今でもヨルダン溪谷北部の沼沢地は、ある季節にはペリカンの生息地となります。イスラエルでは、3種類のペリカンが見られます。一番よく見かけるのは、モモイロペリカン（*Pelecanus onocrotalus*）です。ダルマティアペリカン（*Pelecanus crispus*）とコシベニペリカン（*Pelecanus rufescens*）はそれほど頻繁に見かけません。ペリカンは、人間に邪魔されない未耕作の場所を非常に好みます。そのような場所で巣を作り、ひなをかえします。漁をしたあとはその場所に引きこもります。この鳥はそうように人里離れた荒れ果てた所を好むので、聖書の中では完全な荒廢の象徴として用いられています。イザヤはエドムがやがて荒廢することの象徴として、ペリカンがその地を所有すると予告しました。（イザ 34:11）ゼパニヤは、ニネベの柱頭（建物の柱の最上部で、その頭部の飾りをなすもの）の間にペリカンが棲むようになると預言し、完全な破滅と人間がだれもいなくなることを示しました。—ゼパ 2:13, 14。

Q. 今週の範囲からどんな宝石を見つけましたか。（詩 100:3,5、101:3,5,7、102:6,10,18,23,26）

（100:3）エホバが神であることを知れ。 その方が私たちが造った。私たちはその方のもの。

私たちは神の民、神の牧草地の羊。

（102:18）このことは後の世代のために書かれます。

まだ生まれていない民がヤハを賛美するようになるためです。

（102:23）神は、まだ先がある私の力を奪い、私の寿命を短くしました。

（102:26）天と地は滅びます。しかしあなたは存在し続けます。天と地は、衣服のように擦り切れます。あなたによって服のように取り換えられ、消え去ります。

※注解を準備して下さったり、参加して下さった皆さんに感謝いたします。

	オリーブ	バルサム	アーモンド	アカシア
1	浮田蒼	星延宏	滝秀貞	竹林直毅
2	田中慶一	星佳代	大谷正	竹林垂矢子
3	田中麻美子	星拓哉	大谷恵美子	水品安章
4	田中克彦	吉田忍	有田悟	水品由美子
5	田中弘子	吉田明美	有田優子	伊藤勇一
6	米山英行	長谷川貴史	阿部直生	伊藤本子
7	金刺桂子	長谷川瑛一	有川聖七	宮崎倫子
8	金刺由里子	田島智子	枝並あや子	石原小夜子
9	金刺垂以子	田島マヤ	枝並真菜	石原里佳
10	金目一郎	波多野信昭	福永和子	小島千晴
11	金目明美	波多野敬子	福永悦子	小島奈帆美
12	大坂典子	柴田まり子	荻原幸子	高橋綾子
13	高橋節子	柴田さつき	横山さち子	杉本千花子
14	杉山みどり	布川志津	米山京子	中田由美
15	長谷川裕美子	川島みさ子	居松広子	奥村由美
16	長谷川真穂	向山公康	安齋麻理	庄司祐子
17		平山優子	下野輝行	大谷優志
18		宮城ひかる		大谷桜